

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2793700069		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘6-6-35		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.starts-care.jp/kirara_senrioka/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人の心を大切に、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」をホームの理念とし、いつも利用者様の心に寄り添った介護を全職員が実践しております。
また、リビングや共用部は四季折々の飾りつけを利用者様と共に制作し、季節を感じていただいております。
コロナ禍の世の中ですが、他の人との接触を出来るだけ避けながら近隣の公園を散歩したり、敷地内でバーベキュー大会を開催するなど工夫を凝らしながら、利用者様の日常に潤いと安らぎを感じていただけるよう、取り組んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設三年目を迎えようとしているホームは前管理者が法人の増設等で急に転勤し、直近に就任した新管理者の下での外部評価となったが引き継ぎを行い、自らの言葉で自己評価を仕上げている。特に優れている点は開設以来、献立・食材調達・調理等食事の一連の過程を職員皆が協力し合い、利用者も参加し、匂いや音を感じながら手作りの美味しい出来立て料理を提供している。近隣に公園やスーパー及び公民館があり、コロナ禍で少し残念だが通常は散歩等日常の外出に最適な場所である。ホーム内の飾りつけは利用者も参加し、居間兼食堂はイベント時に合わせた、廊下には四季折々の折花、所々に昔を思い出す広告画が飾られ、見るだけでも安らぎや喜びを感じると共に職員や管理者の利用者中心の姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を全スタッフに周知徹底し、全員で同じ方向に向かって、ホームを作っているよう、努力しております。	企業理念「人の心を大切にし、ふれあいを通じて笑顔、やすらぎ、喜びを提供します」を掲げ、掲示し、職員の共有を図っている。会議等でも話し合い、原点を確認し、理念の実践につなげている。開設後まだ短い職員が参加したホーム独自の理念も検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦ですので、地域の方との交流はどうしても希薄になりますが、制約がある中でも散歩をしたり、面会をしていただいたり、出来る交流を模索しております。	今年は残念だが通常は自治会に加入し、地域の夏祭り(盆踊り)や敬老会に参加している。安全を確保しながらの公園への散歩を少しでも努力し、地域住民に挨拶を交わしている。ボランティアの受け入れも過去に実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させて頂いたり、お招きして頂いたりしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できませんが、関係各所との連絡を取り、ご家族の方々から頂いたご意見を活かしサービスの向上に努めております。	現状、書類による運営推進会議となっている。参加メンバーの家族・利用者・市役所担当職員にホームの状況や事故報告を通知し、意見を聞き、運営に活かしている。自治会等にも呼びかけているが参加に至っていない。新管理者は市に地域包括支援センター等の実情を聞き、呼びかけを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との常に連携が取れる様に対応させて頂いております。	市の担当者は運営推進会議の参加メンバーなので分からないことがあれば電話で問い合わせたり、市に出向くこともある。市主催の施設連絡会には参加している。市の工作物展示会にホームの利用者が創作した作品を展示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。	身体拘束適正化に向けての指針書を整備し、運営推進会議時に身体拘束委員会を開催している。身体拘束に関する法人のマニュアルを整備し、職員研修も年2回、実施している。身体拘束につながらないようにグレーゾーンである言葉使い(スピーチロック)等の研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2カ月に1回必ず身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束・虐待の防止・権利擁護についても話し合い、防止に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに、契約までの流れを解りやすく、細かく説明させていただき、ご納得されたうえで契約をさせていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関先に設置したり介護相談員の方をお迎えし、ご意見を頂いた際には早急に検討し反映させていただける体制を設けている。	意見箱を設置したり、介護相談員を受け入れ、意見等を聞くようにしている。家族の訪問時に利用者の状況を報告したり、電話を使ったり、「便り」等で様子を定期的に報告している。把握できたことには即、対応するようにしている。	家族はホームに意見等があっても言い難いものである。家族が一番知りたがっている日常の生活動作や総合評価を毎月、ケアマネージャーが箇条書きに分かり易い言葉での「便り」を家族に送付し、送付後も職員はフォローし、家族が要望等を言い易い環境やより良い信頼関係を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議とユニット会議を実施。その他常に悩みや困りごとを聞きやすい雰囲気づくりをしております。	毎月の全体会議やユニットごとの会議を通じ、職員の意見や要望を聞くようにしている。職員不足を少し感じながらも職員は少しでも散歩が出来るように支援したり、ケアサービスの質向上を図っている。新管理者は目下、職員1人ひとりとのコミュニケーションを図り、言い易い環境を築くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給及び賞与に関しては考課表をもちいてフィードバックするようしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、毎月の研修を実施、個々には都度、個人の力量に合わせたケアの助言を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政で開催される研修に参加させていただき交流する機会を設けていただいております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントをしっかりと取り、入所当初はコミュニケーションの時間を多く取り、本人の気持ちを理解すべく日々関係づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子は、毎月のお手紙でお知らせし、また特に急ぎの重要事項に関しては随時電話にて報告させていただき、その他の事項は訪問時に報告させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングの時間を設けさせていただき細かな変化にも早急に対応させていただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から教わることも多々ありますので常に接遇等も大事にしながらご利用者様と同じ目線で対応させていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族様にホームでの生活や体調などをご報告させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより親戚の方やご友人など特段制限を求めず時間も縛りなく気軽に訪問していただける環境づくりをさせていただいています。	今までの近隣の知人等で家族の訪問より多い方もいる。ホームは歓迎し、途切れないように支援している。家族の協力で実家に戻ったり、かかりつけ医への通院時を利用し、行きつけのお店や美容室に出掛け馴染みの場所支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に極力リビングで過ごしていただきスタッフが間に入り利用者様が孤立しないような環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームのご利用が終了した後も、お互いに電話連絡をし、必要に応じてご相談をお受けするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍ではありますが、食べたい物などの希望をお聞きし実現できることは可能な限り実行させていただいております。	入居時のアセスメントシートに利用者ごとに過去の生活歴や趣味を記入し、職員は何時でも見ることができ共有している。入居後も寄り添い、過去に編み物や縫物を得意とする方等が把握でき、沿った支援をしている。ホームは食事作りや部屋の掃除を出来る方も見守りながら思いに沿った過ごし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの環境を重視し外出の機会を設けたり、好きなものをお聞きし献立に盛り込んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や、就寝時間などは特に制限は特に制限を設けず自由な時間に寝起きしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日々の面会時等に頂いたご意見を反映させていただいています。	毎月、モニタリングを実施し利用者の変化を把握している。介護計画作成の前に医師や家族と相談し、カンファレンスやサービス担当者会議を行い、現状に合った計画作成につなげている。見直しも基本6ヶ月ごとに行っているが急変や入退院時には随時変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をどのスタッフが見てもわかりやすく見れるように、また申し送りノートを活用し、スタッフ間の情報共有に努めさせていただいております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の趣向に合わせて、家事支援の援助をさせていただいたり散歩や室内の飾りつけをさせていただいたりしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園を利用し、散歩などをさせていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は毎月2回往診。急な体調変化はホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。	従来のかかりつけ医の利用者はいるが、全員が協力医院の内科・外科の往診を月2回受けている。歯科医も同様に週1回往診を受けている。眼科は、その都度必要に応じて専門の医療機関で受診し家族に同行してもらっている。訪問看護師による週1回の訪問診療で健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問にて対応。体調変化についてはホームからの連絡を24時間オンコール対応していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室の方とコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化した時のホームとしての指針を示し、重度化した際は早めの段階で本人やご家族様と話し合い十分な説明をし医療機関関係者とチームで支援できるように取り組みます。	入居時に重度化した場合の指針を説明して重度化した場合は、早目の段階で本人や家族との話し合いを行い希望に沿った支援ができるよう対応している。職員は、重度化した場合や看取りについて勉強会を行い質向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の訓練を実施・予定しています。	消防及び避難訓練は、夜間も含め年2回行っている。自動火災報知設備・スプリンクラー・誘導灯など整備している。緊急事態の折りの招集には職員が短時間で集まる対応が出来る。災害時に備えて1週間分の水や食料を備蓄している。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを尊重する配慮や言葉かけ、対応を実施させていただいています。	利用者の一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように入浴時の同性介護や排泄時・着替え時にはカーテンを使ったり居室への出入りに注意を払っている。個人情報書類等は、事務所の鍵付きロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし、施設のペースではなく、利用者様の自己決定で、生活できるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、食事・入浴・散歩等の時間をご利用者様にあわせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、寝ぐせ直し等個人に合わせて身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食事のメニューを取り入れ、買い物・準備・片付けなどを一緒にさせていただいています。	職員がメニューを考えて、食材を買いに行き利用者と一緒に調理し、盛り付け・片付けを行っている。普通食・ミキサー食・極きざみ食と体調に合わせて食事が出来るように支援している。おやつにはホットケーキ等の手作りを楽しんでいる。職員も一緒に食事を取り家庭的な雰囲気の中で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供しています。水分も1500ccを目安にしコーヒー・紅茶・ココア・緑茶など豊富に取り揃え選んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問して個別にケアを指導しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレを利用していただき、生活リハビリしていただけるよう、取り込んでおります。	個人の排泄パターンから表情や仕草を見ながらトイレ誘導しているが殆どの利用者は自立している。夜間はオムツを使用している利用者がいるが睡眠を妨げないように可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、摂津市の体操を行い、野菜・豆乳ジュースの摂取、また水分をしっかり飲んでいただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずにお声掛けをし、その日に入浴をご希望されないときは別の日に入浴していただくなど、臨機応変に対応させていただき、アクティビティとしての入浴を楽しんでいただいております。	週2回午後からの入浴を原則としている。入浴拒否の人には、介助の人や曜日・時間を変えたり工夫してまたおしゃべりをしながら清潔保持に努めている。浴槽は、3方向介助が可能なタイプで重症の利用者でも負担なく入浴できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し眠たくなれた時に寝ていただける様に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にはスタッフふたりでお名前を何月何日〇〇様〇錠〇包きますとダブルチェックし、ご本人様と一緒にもう一度確認したのち服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外気に触れるか洗濯もの干しや買い物・散歩・レクリエーションなどを実施していますが、ご本人様に合わせて無理強いをしない様に心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるようなお散歩を心がけています。	以前は、花見・紅葉狩りで万博公園等へ行くこともあったが、今はコロナ禍のためホームの玄関先や1階のテラスで外気に触れるよう努めている。近くの公園へはひとけのない時間を見計らって外出する機会を設け支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、外出が難しいため、利用者様の希望をお聞きし、ご希望される趣向品などを代わりに購入しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や文通などは特に制限なく自由にしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるように配慮しています。ソファは皆さんご自由に使用していただいています。	共用空間のリビングは明るくきれいに整頓され湿度・温度が管理されている。廊下の壁面は行事の写真や折り紙や押し絵で造られたあじさいや紅葉を飾り季節感が感じられる居心地の良い空間になっている。職員が毎朝清掃し安全で快適な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを配置し思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族様からヒアリングさせていただき、なじみの家具等の配置をしていただいています。	居室には、クローゼット・エアコンが設置されている。利用者が使い慣れたベッド・家具・カーテン等持込み今までの生活延長とし居心地良く過ごしている。テレビや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。写真を飾ったりその人らしい居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレは自由に使用していただけるよう清潔保持に努めております。		